

環境経営レポート2019年度版

2019.05.01 ~ 2020.04.30

ver.1.2



発行日 2020年6月10日

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

目次

1. 会社概要・対象範囲	1	③ 廃棄物の排出量	12
2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり	2	④ 環境対応商品の売上高	13
3. 環境経営方針	3	6. 環境啓発活動	14
4. 環境経営組織図	4	7. グリーン購入について	15
5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧	5	8. 環境関連法規	16
①-A 電力使用量	6～8	9. 中期環境経営目標設定(2020年度～2022年度)	17
①-B ガソリン使用量	9	10. 代表者の総括	18
①-C CO2排出量	10		
② 水使用量	11		

1. 会社概要・対象範囲

■会社概要

- ◆社名 株式会社長門屋商店
- ◆代表者 代表取締役 横溝純一
- ◆創業 1947年
- ◆設立 1953年
- ◆資本金 1,000万円
- ◆従業員数 21名(就業役員を含む)
- ◆事業内容 文具・紙製品の製造卸、小売業、賃貸業
- ◆事業所
 - 本社・小売事業部 東京都港区麻布十番1-5-25
床面積：173.73㎡
 - 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
床面積：301.69㎡
- ◆環境管理責任者 営業部DS主任 佐竹英幸

◆事業規模

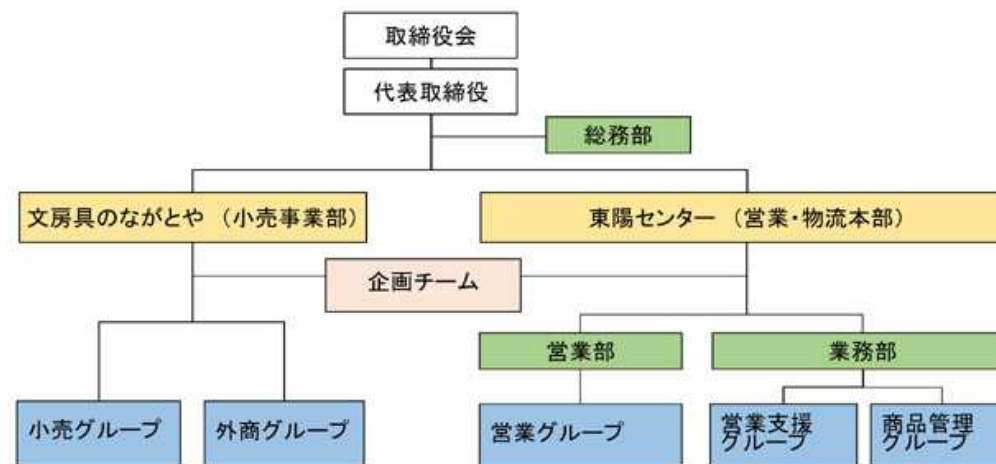
	2017年度	2018年度	2019年度
売上高(万円)	70,900	74,000	76,000

決算期末(6月)売上高

■対象範囲

- ①対象とする組織：全組織
- ②対象とする人員：全従業員
- ③対象とする事業活動：全事業活動

組織図



主力商品



プリンタ用紙



祝儀・その他文具

2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり



目標4 「質の高い教育をみんなに」

- 公益財団法人オイスカ こどもの森計画支援
→P13, 14



目標14 「海の豊かさを守ろう」

- WWF 南西諸島プロジェクト支援(サンゴ礁保護)
- 海洋プラスチック問題への取り組み
→P13, 14



目標7 「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

- クリーンエネルギー(太陽光発電)の利用
- 化石燃料によるエネルギー使用量の削減
→P6~8, 9



目標15 「陸の豊かさも守ろう」

- WWF 南西諸島プロジェクト支援(希少動物保護)
- グリーン購入法適合品の積極的利用
→P13, 14, 15



目標12 「つくる責任つかう責任」

- 廃棄物の分別・再利用を含めた削減
- 持続可能な製品の製造・販売に寄与する
→P12, 13



目標14 「パートナーシップで目標を達成しよう」

- (公財)オイスカ、WWFジャパンとのパートナーシップ
→P14



目標13 「気候変動に具体的な対策を」

- 地球温暖化対策としてCO2削減の取り組み
→P10



3. 環境経営方針

株式会社長門屋商店は、私たちの未来のため、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現と継続的な環境負荷の低減を推進します。

1. 事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、SDGsを見据えた社会的貢献を目指します。
2. 環境関連の法令・規則を遵守すると共に、ステークホルダーと協力的な関係を確立します。
3. 商品の製造から販売に至るまで『地球にやさしい』を追求し、環境負荷の低減に努め、以下を実施します。
 - a. 環境負荷の小さい主原料や副資材を積極的に調達し、製造・流通過程においても最大限の効率化を図ります。
 - b. 間接支援型環境商品の販売を通じて売上の一部を森林保護や海洋保全団体等の環境保護活動へ役立てます。
 - c. 小売事業においては、レジ袋削減をはじめとした『脱プラスチック』に取り組み、これを推進します。
4. 限りある資源の保全を目的に省エネ・省ゴミ活動を普遍的に継続し、企業価値及び文化的水準の向上へと繋がります。
5. 環境経営における目標・計画・実施状況については、全従業員に周知徹底すると共に、「環境経営レポート」として公表します。

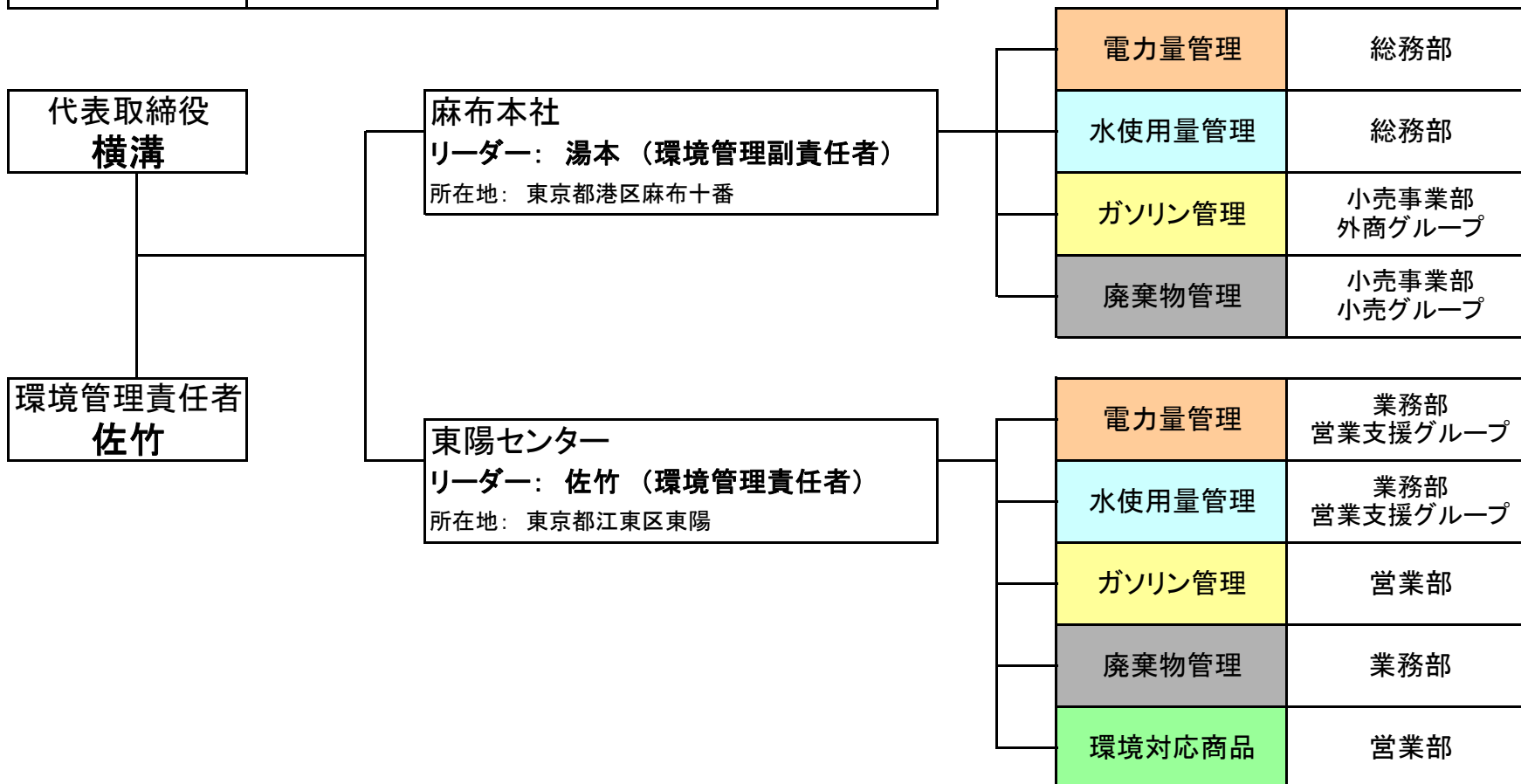
改訂：2018年5月1日
制定：2006年11月01日

株式会社 長門屋商店
代表取締役 横溝純一

4. 環境経営組織図

〔役割・責任・権限〕

代表取締役	環境経営方針の策定、環境管理責任者の指名、必要な資源を準備、目標値と実行計画の作成・是正指示
環境管理責任者	環境経営システムの維持、環境経営レポートの作成、各部署の運用状況の把握、定期ミーティングの開催
各部署担当	月次の数値の記録、定期ミーティングにおいて運用状況の報告



5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧

実施事項	2018年度実績	2019年度実績	2019年度目標	目標達成状況
①-A 電力使用量	53,178kWh	49,672kWh 前年対比 -6.6%	52,300kWh (対2018年度-1.6%)	目標対比 -5.0% ◎
①-B ガソリン使用量	5,062リットル	5,061リットル 前年対比 -0.0%	5,220リットル (対2018年度3.1%)	目標対比 -3.0% ◎
①-C CO2排出量※	32,882kg-CO2	32,029kg-CO2 前年対比 -2.6%	32,100kg-CO2 (対2018年度-2.3%)	目標対比 -0.2% ◎
② 水使用量	211m3	165m3 前年対比 -21.8%	209m3 (対2018年度-0.9%)	目標対比 -21.1% ◎
③-A 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ（熱回収/埋立）	497.6kg	433.0kg 前年対比 -13.0%	485.0kg (対2018年度-2.5%)	目標対比 -10.7% ◎
③-B 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール（再生）	4089.9kg	3675.0kg 前年対比 -10.1%	3980.0kg (対2018年度-2.6%)	目標対比 -7.7% ◎
④ 環境対応商品の売上高	27,438万円	24,810万円 前年対比 -9.6%	28,000万円 (対2018年度2%)	目標対比 -11.4% ×

※CO2排出量使用排出係数：購入電力0.000512(t-CO2/kWh)・ガソリン2.32166(kg-CO2/l)

◎は設定目標達成 ○は設定目標に及ばずも前年実績より良化 △は前年実績並 ×は目標、前年実績ともクリアできず

環境経営目標実施要項①-A 電力使用量(その1/実績一覧)

SDGs該当項目⇒



本社ビル	2017年度	2018年度	2019年度
購入電力量(1)	31,147kWh	30,247kWh	28,763kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	678kWh	1,723kWh	885kWh
実質電力使用量(1)+(2)	31,825kWh	31,970kWh	29,648kWh
前年比		100.46%	92.74%

東陽センター	2017年度	2018年度	2019年度
購入電力量(1)	13,044kWh	14,237kWh	13,792kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	6,533kWh	6,971kWh	6,232kWh
実質電力使用量(1)+(2)	19,577kWh	21,208kWh	20,024kWh
前年比		108.33%	94.42%

全社合計	2017年度	2018年度	2019年度
購入電力量(1)	44,191kWh	44,484kWh	42,555kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	7,211kWh	8,694kWh	7,117kWh
実質電力使用量(1)+(2)	51,402kWh	53,178kWh	49,672kWh
前年比		103.46%	93.41%



前年対比 **-6.6%**

※太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

環境経営目標実施要項①-A 電力使用量(その2/取組内容)

SDGs該当項目⇒



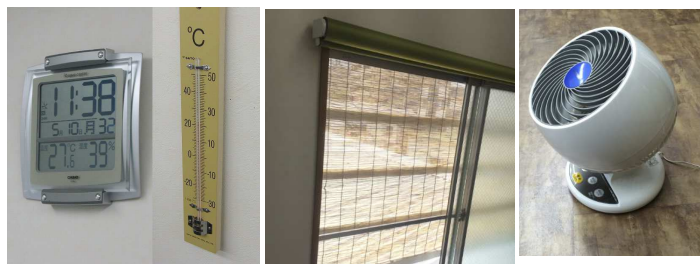
↑ LED電球およびLED蛍光灯



本社 ソーラー設備 9.8kw
今期の年間発電量: 9375kWh
2012年4月からの累計: 84258kWh



東陽センター ソーラー設備 10kw
今期の年間発電量: 10158kWh
2010年8月からの累計: 113124kWh



↑ 温度管理へのさまざまな工夫

■新規取組

◆働き方改革に伴い、早朝出勤の制限や早帰りデーを実施。結果として使用電力の削減につながりました。

■継続取組

●エアコンとサーキュレータ・扇風機の併用等 ●事務所にすだれの設置 ●温度計を使用して室温管理 ●個別の消灯 ●OAタップによる待機電流OFF

●月次電力使用量 (2019年5月～2020年4月)

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	年間
麻布本社	前年実績	2198	1961	2272	2644	2489	2121	2130	2237	3336	3741	3629	3212	31970
	当年実績	2349	1725	1821	2398	2237	2108	2022	2115	3195	3508	3005	3165	29648
東陽センター	前年実績	1283	1320	2356	2214	1966	1416	1161	1742	1924	2157	1939	1730	21208
	当年実績	1200	1147	1711	2165	2255	1437	1075	1856	1767	2018	1782	1611	20024
合計	前年実績	3481	3281	4628	4858	4455	3537	3291	3979	5260	5898	5568	4942	53178
	当年実績	3549	2872	3532	4563	4492	3545	3097	3971	4962	5526	4787	4776	49672
	前年比	101.95%	87.53%	76.32%	93.93%	100.83%	100.23%	94.11%	99.80%	94.33%	93.69%	85.97%	96.64%	93.41%

(単位: kWh)

環境経営目標実施要項①-A 電力使用量(その3/評価・次年度へ)

SDGs該当項目⇒



2018/5導入 新型LED照明(全9台)



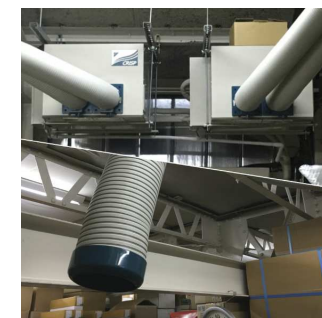
2018/5完成 新作業室



2018/5導入 新作業室用エアコン



2016/6換装 小売事業部エアコン



2016/6導入 東陽スポットエアコン

■今年度の評価

〔本社ビル〕

夏季に関しては、窓を開放し外気を取り入れる工夫をしエアコンの使用を極力控えました。結果として電力使用量を大きく減少することができました。冬季については、今年度に限られますが新型コロナの影響で営業時間を短縮したことによりエアコンや電灯の使用時間が減り、使用電力が抑えられました。今後もできる工夫を続けて参ります。

〔東陽センター〕

前年比5.5%の減少となりました。早朝出勤の制限や早帰りを促進した影響がかなり大きかったようです。効率的に仕事を終わらせるための継続した取り組みを強化して参ります。

■次年度へ

今年度は営業時間の短縮の影響が想定より大きく、大幅に削減できました。次年度は新型コロナ対策としてエアコン使用時の外気流入やサーキュレーター使用による電力使用量の増加が見込まれますが、使用していない場所の照明を切る、定時以降は使用範囲を限定するなど、できることを積み重ねて削減努力を引き続き行って参ります。

環境経営目標実施要項①-B ガソリン使用量

SDGs該当項目⇒



出発前の車両



低燃費運転の心がけを車両内に表示



発送前商品

⇒運送会社の発送を積極的に活用

	2017年度	2018年度	2019年度
ガソリン使用量	5,669L	5,062L	5,061L
前年比		89.29%	99.98%

前年対比 **-0.0%**

【参考】全車の年間走行距離と一台あたりの燃費

	2017年度	2018年度	2019年度
全車合計走行距離	64530km	56840km	51730km
前年比		88.08%	91.01%
一台あたり燃費	11.38km/L	11.22km/L	10.22km/L
前年比		98.59%	91.09%

■継続取組

- 車内に「低燃費運転の心がけ」を貼り意識向上
 - ①アクセルワーク51%以下②アイドリングストップ
 - ③エアコンは控え目④タイヤの空気圧チェック
- 工場や仕入先などからの直送を増やし積載減

■評価・次年度へ

使用量は昨年比ほぼ同量でしたが、年度途中に車両の入替が行われたため目標値の変更を行っており、目標比3%程度減少させることができました。
引き続き運送会社への発送にシフトさせる取組を行っており、ガソリン使用量の減少につながっております。
次年度以降も引き続き低燃費運転を心がけるよう、進めて参ります。

環境経営目標実施要項①-C Co2排出量

SDGs該当項目⇒



CO2排出係数		使用数値
購入電力	東京電力エナジーパートナー使用分	0.000468 t-CO2/kWh
	楽天モバイル使用分 (東陽センター2019年10月分より)	0.000512 t-CO2/kWh
ガソリン	EA21ガイドライン	2.32166 kg-CO2/l

※2019年度の購入電力の係数は2020年1月7日公表値の実排出係数に拠ります。

全社合計		2017年度	2018年度	2019年度
本社ビル 購入電力	排出CO2	15,137kg-CO2	14,367kg-CO2	13,461kg-CO2
	購入量	31,147kWh	30,247kWh	28,763kWh
東陽センター 購入電力	排出CO2	6,339kg-CO2	6,763kg-CO2	6,818kg-CO2
	購入量	13,044kWh	14,237kWh	13,792kWh
全社ガソリン 使用量	排出CO2	13,161kg-CO2	11,752kg-CO2	11,750kg-CO2
	使用量	5,669L	5,062L	5,061L
排出CO2総量		34,637kg-CO2	32,882kg-CO2	32,029kg-CO2
前年比			94.93%	97.41%

【参考】

	2017年度	2018年度	2019年度
排出CO2原単位 (売上高百万円当り)	48.85 kg-CO2/万円	44.44 kg-CO2/万円	42.14 kg-CO2/万円
前年比		90.96%	94.84%

オフセット計算	2019年度
本社ビル 総発電量	9,375kWh
東陽センター 総発電量	10,158kWh
発電量合計	19,533kWh

※計測端末の値を引用

購入電力での排出量

⇒ 9,141kg-CO2 相当

購入分より差引 ↓

太陽光発電によるオフセット後の排出量 22,888kg-CO2

※なお、昨年のオフセット後の排出量は 22,236kg-CO2でした。
(前年比約2.9%増)

前年対比 **-2.59%**

環境経営目標実施要項② 水使用量



本社ビル	2017年度	2018年度	2019年度
上下水道使用量	37m3	42m3	51m3
前年比		113.51%	121.43%

東陽センター	2017年度	2018年度	2019年度
上下水道使用量	169m3	169m3	114m3
前年比		100.00%	67.46%

全社合計	2017年度	2018年度	2019年度
上下水道使用量	206m3	211m3	165m3
前年比		102.43%	78.20%

■継続取組

- 雨水を貯水して清掃や洗車や植木の水やりに使用しています。
- 節水コマを取り付け流量を絞り、ムダを省くよう取り組んでいます。

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕

前期より水使用量が増加していたため調査したところ、今年度よりビルの清掃業者が変わり、1回の水使用量と清掃頻度が増えたことが原因と突き止めました。その後は節水をお願いし、協力頂いております。来期は今期の結果を元に、削減に努めて参ります。

〔東陽センター〕

大幅減となりました。各人の節水への意識の表れが結果につながっていると見ております。継続して行えるよう進めて参ります。

前年対比 -21.8%

環境経営目標実施要項③ 廃棄物の排出量

SDGs該当項目⇒



↑ 合い紙の活用



↑ ダンボール再利用



↑ 計量用のスケール



↑ 3種の分別ゴミ箱を用意しています。

可燃ごみ・不燃ごみ（熱回収/埋立）

熱回収/埋立	2017年度	2018年度	2019年度
本社ビル	37.3kg	36.3kg	28.3kg
東陽センター	545.1kg	461.3kg	404.7kg
合計	582.4kg	497.6kg	433.0kg
前年比		85.44%	87.02%

■継続取組

- 合い紙の社内ドキュメントへ活用
- ダンボールの再利用
- 古紙やプラの分類回収
- ペーパーレスの促進
- ペットボトルとキャップの分別収集

プラ・古紙・ダンボール（再生）

再生	2017年度	2018年度	2019年度
本社ビル	933.1kg	897.7kg	549.3kg
東陽センター	3159.6kg	3192.2kg	3125.7kg
合計	4092.7kg	4089.9kg	3675.0kg
前年比		99.93%	89.86%

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕

分別に対して日々の意識が浸透したこと、再生分は前期発生した古い書類の一括廃棄が無かったこともあり、大幅な削減に繋がったと考えます。

〔東陽センター〕

熱回収については本年度はまとまった廃棄が無かったこと、削減の意識が進んでいることにより、大幅減を実現できました。再生についてはダンボールの再利用を継続している効果もあり、昨年比微減となりました。引き続きの取り組みを進めて参ります。

環境経営目標実施要項④ 環境対応商品の売上高

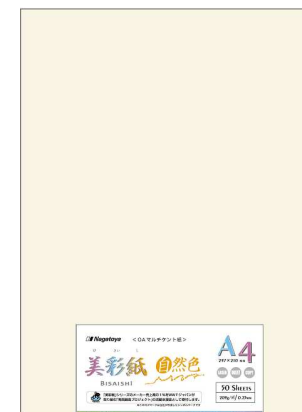
SDGs該当項目⇒



売上の一部を(公財)オイスカへ寄付している
「カラーペーパー」シリーズ



グリーン購入法適合用紙
「ホワイトペーパーR」シリーズ



売上の一部をWWFジャパンの南西諸島
保全へ寄付している「美彩紙」シリーズ

■対象商品(下記いずれか含まれているもの)

- ①売上の一部を環境保全団体に寄付している。
- ②原料に廃材や再生材を使用している。
- ③非木材原料を使用している。

■評価・次年度へ

達成率は、前年比90%程度でした。
年度後半の新型コロナの影響もありますが、環境紙G80の後継品のホワイトペーパーRシリーズへの切り替えが想定より進まなかった影響が大きいです。少しずつですが定着してきているので、来期盛り返したいです。

	2017年度	2018年度	2019年度
環境対応商品	27,448万円	27,438万円	24,810万円
前年比		99.96%	90.42%

当社基準による自社ブランドでの売上高です。

前年対比 -9.58%

6. 環境啓発活動

SDGs該当項目⇒



－オイスカ「子供の森」計画支援－

「子供の森」計画はこどもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうという学校単位の新しい森づくり運動です。弊社製品の売上の一部を公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画に寄付しております。
(2019年度実績: 466,415円)



－WWF「南西諸島プロジェクト」支援－

WWFジャパンは、鹿児島県・沖縄県の島部である南西諸島全体の生態系保全を目的とした「南西諸島プロジェクト」(南西諸島エコリージョン)に取り組んでいます。
これまでの「しらほサンゴ村」支援と同様、南西諸島の生物多様性の保全のために「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付しております。(2019年度実績: 403,045円)



NANSEIちゃん

特別天然記念物「アマミノクロウサギ」と沖縄近海の「アオサンゴ」をモチーフとした、弊社のオリジナルシンボルマーク・通称NANSEIちゃんです。「OAマルチケント紙 美彩紙」シリーズの商品パッケージに表記しております。



7. グリーン購入について

SDGs該当項目⇒

♣グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりません。以下の通りに意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真のように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

■コピー用紙はシーンによって、再生PPCを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



8. 環境関連法規

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	■環境への負荷の低減の取組 ■自動車公害対策(アイドリングストップ)	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	■廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理	○	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	■水銀を含む廃棄物に関しての対応	○	遵守
江東区清掃リサイクル条例	■事業系一般廃棄物に関して	○	遵守
港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	■事業者の責務・減量義務等	○	遵守
江東区環境基本条例	■第7条(事業者の責務)ほか	○	遵守
容器包装リサイクル法	■紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握 ■商品包装への識別マーク表示 ■上記の包装資材の再商品化義務	○	遵守
家庭用品品質表示法	■障子紙が該当	○	遵守
下水道法	■日常使用の範囲	○	遵守
労働安全衛生規則	■電動フォークリフトの法定検査および自主検査	○	遵守
道路運送車両法	■自賠責・納税・走行ルール	○	遵守
自動車リサイクル法	■リース会社・販売会社に委託	○	遵守
家電リサイクル法	■指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払	○	遵守
小型家電リサイクル法	■指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払	○	遵守
資源有効利用促進法	■使用済みの事業系パソコンの排出	○	遵守
フロン排出抑制法	■設置のパッケージエアコン等の簡易点検	○	遵守

2020年6月現在

環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規に関する違反はありません。また訴訟についても事例がありません。
関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

9. 中期環境経営目標設定（2020年度～2022年度）

実施事項	2019年度実績	2020年度目標	3カ年での中期目標
①-A 電力使用量	49,672kWh	49,200kWh 前年対比 -1.0%	2021年度 48,700kWh (対2019年度-1.9%) 2022年度 48,200kWh (対2019年度-2.9%)
①-B ガソリン使用量	5,061リットル	4,980リットル 前年対比 -1.6%	2021年度 4,900リットル (対2019年度-3.1%) 2022年度 4,820リットル (対2019年度-4.7%)
①-C CO2排出量(※)	32,029kg-CO2	31,600kg-CO2 前年対比 -1.3%	2021年度 31,200kg-CO2 (対2019年度-2.5%) 2022年度 30,800kg-CO2 (対2019年度-3.8%)
② 水使用量	165m3	163m3 前年対比 -1.2%	2021年度 161m3 (対2019年度-2.4%) 2022年度 159m3 (対2019年度-3.6%)
③-A 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ（熱回収/埋立）	433.0kg	425.0kg 前年対比 -1.8%	2021年度 418.0kg (対2019年度-3.4%) 2022年度 410.0kg (対2019年度-5.3%)
③-B 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール（再生）	3675.0kg	3600.0kg 前年対比 -2.0%	2021年度 3550.0kg (対2019年度-3.4%) 2022年度 3500.0kg (対2019年度-4.7%)
④ 環境対応商品売上高	24,810万円	25,300万円 前年対比 +2.0%	2021年度 25,800万円 (対2019年度+3.9%) 2022年度 26,300万円 (対2019年度+6%)
⑤ 従業員の環境意識向上	緑化推進・クールビズ・健康増進		

※使用排出係数：購入電力0.000512(t-CO2/kWh)・ガソリン2.32166(kg-CO2/l)

10. 代表者の総括

■代表者による総括と改善指示

【当該年度の総括】

今期の売上は、前半順調な進捗を示していましたが、後期となる年明けから生じ始めた新型コロナウイルス感染症拡大の影響により昨年度実績から微減する結果となりました。これまでに経験がない会社経営の継続すら厳しい環境と対峙することになり、社員の安全や健康を最優先事項に置きながら並行して業務継続を押し進める経営の過程においては、環境経営に向き合う余裕すら失っていたと言うのが正直な感想です。

そんな状況下においても、環境経営目標としている「CO₂排出量削減」を継続的に達成することが出来ました。特に電力使用量は目標値を大幅に下回り、ガソリン使用量については期中社用車の入れ替えに伴う目標の下方修正を行いました。当初から設定した初期目標をクリアするに至りました。

電力使用量の削減の要因には、東陽センターに実施した早帰りデーによる副産物としての効果があります。小売事業部においては、暖冬影響の他、コロナ禍の営業時間短縮がその要因として挙げられます。ガソリン使用量の削減については、コロナ禍全社的に行った訪問営業の自粛により移動範囲が大幅に縮小したことが要因のひとつに挙げられます。

一方で「環境対応商品の売上高アップ」の項目において、その達成が厳しい状況が続いています。環境配慮情報が都度変更されると、安定的な商品売上が見込めなくなり、環境対応商品の開発にもより一層慎重さが求められる悪循環が生じています。

環境経営の一方で、今年度はWWFジャパンからのご案内により「ソーラーライトチャレンジ」プログラムに参加しました。全社員が自発電式のライトキットを組み立て、電力の乏しい国々の子供達へ「勉学の為の灯り」を寄贈する活動です。このような社会貢献活動へも今後も積極的に取り組んで参ります。

【次年度の見直しや改善指示】

「環境経営方針」「環境経営活動計画」「環境経営」については、次年度も変更なく継続して参ります。

「廃棄物排出量の削減」については、引き続きシステムの再検討を指示しました。

2020年6月10日

代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社 長門屋商店

<http://www.nagatoya.com>

編集者：環境管理責任者 佐竹 英幸

環境管理副責任者 湯本 祥子

〒135-0016 東京都江東区東陽1-3-3

TEL 03-5690-7131

FAX 03-5690-8010